

薬だつ知識

薬に関わる「モノ」のインターネット（IoT）には、薬の情報を必要ときに正確に伝えられるようスマホ向けの電子お薬手帳や、薬の飲み忘れが多く一人では管理が難しい方をサポートしてくれる服薬支援ロボット、24時間血糖値を測定し記録できる血糖測定器などがあります。

中でも電子お薬手帳はさまざまなメーカーや会社で作ったアプリがあり、日本薬剤師会では「日薬eお薬手帳アプリ」を推奨しています。基本的な役割は紙の手帳も電子の手帳も一緒です。今まで服用したり、使ったりした薬の名前や量、経験した副作用などを継続的に記録します。お薬手帳を活用することで、薬の重複などを避けることができたり、急な事故にあった際に服用薬の内容が分かり、救急救命処置が円滑に行いやすくなったりします。

26. 電子お薬手帳

スマホ1台で多彩な機能



電子お薬手帳には、事前に処方箋を送信するなど、便利な機能が多い

電子お薬手帳の利用を希望している方は薬局で薬をもらう際にお薬の情報が入ったQRコードをもらい、スマホのカメラ機能で読み込むことでお薬の情報を記録します。電子お薬手帳は、一つのアプリに複数の利用者を登録できるため、親や配偶者、子どもなど家族の薬の情報も1台のスマホに登録して管理できます。また、QRコードを遠隔地にいる家族に送ること、離れた家族と薬の情報を共有することもできます。

他にもさまざまな機能がありますが、その中でも処方箋の写

真画像を事前にかかりつけ薬局に送信できる機能は特に便利です。薬の確認や薬の準備で発生する薬局での待ち時間を他の時間に有効に活用できます。利用に関しては、事前にかかりつけ薬剤師に相談してください。

お薬手帳は、常に持ち歩くことで自分の身を守るツールとして力を発揮します。急な病気やけが、災害時などのいざという時に使えるように、紙だけでなく、スマホに電子お薬手帳を導入し、緊急時に対応できるようにしておきましょう。（鹿児島県薬剤師会理事・中島啓）

「令和元年12月10日（火）掲載（26. 電子お薬手帳）」